

鉄道廃止路線における駅跡地の再活用状況*

On the Conversion of the Site of the Station*

野尻彰**・大沢昌玄***・岸井隆幸****

By Akira NOJIRI**・Masaharu OOSAWA***・Takayuki KISHII****

1. 研究背景と目的

鉄道は、市街地発展の基であり、鉄道駅を中心に都市の形成が図られてきた。駅は都市の顔であり、駅を中心に都市機能が高密度に集積され生活の拠点でもあった。しかしながらモータリゼーションの影響を受け全国各地で鉄道路線が徐々に廃止され、それに伴い都市の顔である駅も消え、都市構造全体が変化し、都市の顔が無くなりつつある。鉄道路線廃止に伴い発生した駅跡地は、旧国鉄貨物ヤード跡地などのようにまとまった面的な跡地ではなく、線路跡地を含む点的な線状の特殊形状のため、その有効活用には大きな課題を有する。さらに、駅を包含する中心市街地は、地方都市を中心に疲弊し空き店舗や空地が多数存在する状況であり、駅跡地の再活用の糸口を見つけることが困難な状況にあるともいえる。また近年は、地方部のみならず大都市圏近郊に位置する茨城県の鹿島鉄道(2007年3月に廃止、27.2km)や兵庫県の本三木鉄道(2008年3月に廃止、6.6km)の全線が廃止されるなど、鉄道再編の動きが見られ、今後も鉄道廃止による駅跡地が発生し、再活用の検討が必要となることが予想される。

そこで本研究は、鉄道廃止によって発生した鉄道駅跡地について、その土地利用転換の状況を関連市町村、鉄道事業者を対象としてアンケート調査を行い、その実態及び有効活用事例を把握することで、今後も発生が予想される鉄道駅跡地の再活用及び都市整備に有効活用する方策を見出すことを目的とする。

なお既存研究としては、大規模な鉄道跡地の活用実態を把握分析したもの⁽¹⁾やある特定の駅跡地の利用と住民意識を分析した研究⁽²⁾は確認されたが、全国の鉄道駅跡地に着目して、その後の土地利用転換や活用などの実態分析を行っている研究はあまり見られない。

*キーワード：駅跡地、土地利用転換、廃線、道の駅

**正員、修(工)、富山県砺波土木センター工務第一課(元日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻)

***正員、日本大学理工学部土木工学科

****フェロー、博(工)、日本大学理工学部土木工学科

(東京都千代田区神田駿河台1-8、

TEL 03-3259-0679、FAX 03-3259-0679)

2. 研究方法

駅跡地の活用状況を把握するため、全国の鉄道跡地を保有する関係市町村、事業者にアンケート調査を行うこととする。

ここで駅跡地を対象とするため、1950年以降に発生した鉄道廃線距離の推移を地域別に把握した(図-1)。なお、駅跡地を対象とすることから貨物支線、未成線、鉾山鉄道を除く旅客鉄道路線とし、路面電車などの軌道路線は除くこととする。

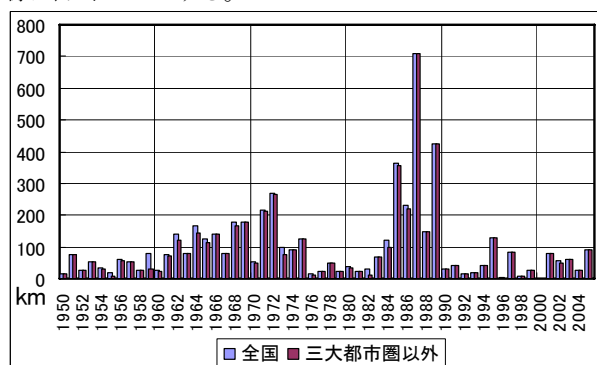


図-1 鉄道路線廃止距離の推移

その結果、三大都市圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県)以外での廃止がほとんどである(全国の廃線距離5,453kmのうち三大都市圏以外は5,198km、全体の95%)ことから、今回のアンケートでは三大都市圏を除いた226路線の169市区町村、74事業者を対象とする。

アンケート調査は、2007年(平成19年)11月22日に調査用紙とフロッピーディスクを郵送により配布し、同年12月25日まで郵送、FAX、メールにて回収を行った。169市区町村のうち116市区町村(回答率68.6%)から回答があり、そのうち有効回答数は114市区町村(有効回答率67.5%)であった。また74事業者のうち36事業者(回答率48.6%)から回答があり、そのうち有効回答数は31事業者(有効回答率41.9%)であった。有効回答に含まなかったものは、具体的な回答が記載されていないものであり、その理由としては資料がない、当時の状況を知る者がいないというものがほとんどであった。

アンケート調査では、駅舎跡地の再活用の状況について①駐車場、②駐輪場、③公益施設、④宅地、⑤バス

停、⑥その他に分類し質問した上で、活用したものを選択し、その他を選択した場合は、具体の再活用の内容を記述してもらった。なお公益施設として再活用した団体に対しては、活用した具体の施設名について①公民館、②図書館、③道の駅、④公園、⑤休憩施設、⑥その他(具体の施設名を記述)のいずれかを選択してもらい、あわせてそのような施設を整備するに至った理由を尋ねた。

3. 駅跡地の再活用状況に関するアンケート調査結果

(1) 駅跡地の再活用(整備)状況

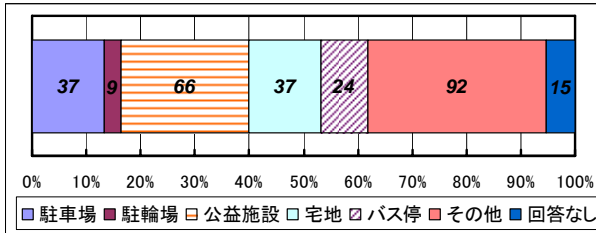


図-2 駅跡地の再活用(整備)状況

表-1 その他の内容⁽³⁾

| 整備内容 | 件数 | 整備内容 | 件数 |
|------------------------|----|-------------|----|
| 一般道路、自転車・歩行者専用道路等道路の一部 | 18 | 工場 | 1 |
| 他鉄道路線の駅舎 | 9 | トロック王国受付 | 1 |
| バス営業所・ターミナル | 7 | 商工会事務所 | 1 |
| 空地・更地 | 5 | 清算対策協議会事務所 | 1 |
| 売却 | 5 | 植栽 | 1 |
| 農地(田・畑等) | 3 | 県へ移管 | 1 |
| 農産物等販売施設 | 3 | 廃止時のまま民間で使用 | 1 |
| パークゴルフ場 | 2 | 遺産として残す | 1 |
| 広場・東屋 | 2 | 駅の看板 | 1 |
| 雑種地 | 2 | 駅舎解体のみ | 1 |
| ホテル | 2 | 旧自動車学校跡地 | 1 |
| 商業施設 | 2 | 協議中 | 5 |
| 町営住宅 | 1 | 駅舎跡地なし | 5 |
| テナントビル | 1 | 整備なし | 4 |
| 賃貸建物・分譲マンション | 1 | | |

鉄道駅跡地については(図-2)、公益施設として整備したものが66件(24%)と一番多く見られ、次いで駐車場37件(13%)、宅地37件(13%)という結果となった。鉄道駅跡地は比較的市街地の中心部にあること、線路跡地のみものとは比べ整備しやすい形状にあるため、これらの整備方法が採られたものと推測される。また、その他では(表-1)、一般道路等道路の一部として整備したという回答が18件と一番多い結果となった。

(2) 駅舎跡地を公益施設として整備したもの

図-3に公益施設の整備内容の詳細を示す。公園として整備したものが37件(41%)と一番多い回答であった。また、休憩施設として整備したものの15件、さらに新たなまちの拠点とするため「道の駅」として整備したものの4件見られ、跡地をまちの活性化の中心拠点として有効に再活用した回答も得ることができた。

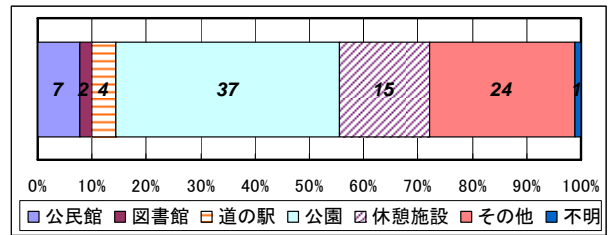


図-3 駅跡地を公益施設として活用した内容

表-2 その他の内容とその整備理由⁽⁴⁾

| 整備内容 | 件数 | 主な整備理由 |
|-------------|----|------------------|
| 鉄道・交通記念館 | 7 | 歴史・遺産の保全、継承 |
| 市役所庁舎・支所 | 4 | 駐車場確保・住民の要望 |
| コミュニティーセンター | 3 | 跡地の立地条件がよい・住民の要望 |
| 自転車道休憩施設 | 2 | 自治体との協議による |
| 観光拠点施設 | 1 | 中心市街地活性化の一環として |
| 下水処理場 | 1 | 不明 |
| 警察駐在所 | 1 | 自治体との協議による |
| 鉱山資料館 | 1 | 歴史・遺産の保全、継承 |
| 保健センター | 1 | 公共的利便上適切と判断したため |
| 鉄道・交通公園 | 3 | 歴史・遺産の保全、継承 |
| 交通ターミナル | 1 | 歴史・遺産の保全、継承 |
| 勤労者福祉センター | 1 | 不明 |
| 複合福祉センター | 1 | 跡地の立地条件がよい |

その他の詳細について見たところ(表-2)、鉄道跡を保存・継承するため鉄道・交通記念館、鉄道交通公園として整備したものが多く結果となった。その整備理由を踏まえると、鉄道及び駅があった記憶を後世に伝えると同時に鉄道の存在を住民の心に留めるために鉄道・交通記念館、鉄道交通公園として整備したことが考えられる。また、市役所庁舎・支所(4件)、コミュニティーセンター(3件)など自治体の施設として再活用している例も見られた。これは、失った公共交通拠点の代わりに住民サービス向上のため、自治体が駅跡地を再活用していることを示している。

4. 駅跡地の有効活用事例

「観光拠点」「道の駅」として再活用し、まちの活性化に有効利用している事例のうち、青森県むつ市の「下北交通大畑線田名部駅跡地」と石川県輪島市の「のと鉄道輪島駅跡地」についてその整備状況と再活用実態を確認する。

(1) 下北交通大畑線田名部駅跡地

下北交通大畑線は、1939年に国鉄大畑線として下北～大畑間(18km)が開業し運行を始めるが、輸送人員の減少により1981年に第一次特定地方交通線に指定され、その後(1985年)下北交通株式会社が経営を引き継いだ。しかしながらその後の経営も厳しく、1996年以降は鉄道部門の赤字を関連事業の利益や資産売却等で穴埋めを行ったが、2001年に廃止となった。アンケート調査によると、廃止後の線路跡地は主に宅地の一部として活用されている。

下北交通大畑線田名部駅跡地(図-4)は、「むつ来さまい館」として整備され、観光拠点施設として再活用されている。田名部駅跡地の用途地域は、商業地域(建蔽率80%、容積率400%、準防火地域)に指定されている。駅前広場は、都市計画決定されていない。なお田名部駅を含む152haの区域が旧中心市街地活性化法の基本計画の区域として指定されている。



図-4 むつ来さまい館(田名部駅跡地)の位置⁽⁵⁾

むつ来さまい館は、近接する「むつ下北観光物産館」「むつ市イベント広場」の2施設とともに、市の産業の振興を図り中心市街地の活性化及び市民の交流促進に寄与することを目的としてむつ市が建設し、2006年4月に開館した。なお運営は、むつ商工会議所が指定管理者となり、行っている。敷地面積3,769㎡、建築面積1,373㎡、延床面積2,469㎡の2階建てであり、展示コーナーでは下北の歴史や温泉等の観光情報を掲示するとともに、イベントホール、会議室等を設置し、地域住民も利用できる施設を整備している。

表-3 むつ来さまい館利用者数

| 利用場所 | 使用料金 (1時間) | 利用者数(人) | | | | | |
|---------|---------------|---------|-------|--------|---------------|-------|--------|
| | | 2006年度 | | | 2007年度(4~12月) | | |
| | | 下北郡内 | 下北郡外 | 合計 | 下北郡内 | 下北郡外 | 合計 |
| ホールA | ¥1,500 | 2,593 | 245 | 2,838 | 2,645 | 255 | 2,900 |
| ホールB | ¥1,500 | 12,105 | 1,710 | 13,815 | 10,939 | 819 | 11,758 |
| 会議室 | ¥800 | 2,864 | 550 | 3,414 | 2,738 | 94 | 2,832 |
| 調理室 | ¥800 | 176 | 20 | 196 | 192 | 0 | 192 |
| ミニギャラリー | ¥1,000 | 318 | 0 | 318 | 251 | 0 | 251 |
| こみせ広場 | ¥100 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 10 |
| スタジオ | ¥400 | 2,847 | 0 | 2,847 | 1,501 | 415 | 1,916 |
| 利用者合計 | — | 20,903 | 2,525 | 23,428 | 18,276 | 1,583 | 19,859 |
| 来館者数 | — | — | — | 65,668 | — | — | 48,967 |

むつ来さまい館は、7つの貸室があり、展示コーナー等施設への入場は自由である。その利用者数(表-3)は、開館した2006年度は23,428人、翌年の2007年度は、4月~12月の段階で19,859人であった。利用場所としては、スタジオ(ラジオ放送)、会議室、ミニギャラリーの利用件数が多く、地域住民に頻りに利用されていること

がわかる。また、貸室以外の来館数は2006年度が65,668人、2007年度(4月~12月)が48,967人であり、これまでの来館数は合計114,635人、貸室も合わせると計15万人近くの人に利用されている。駅跡地をまちの新たな拠点として再整備することにより有効利用できることを示している。

(2)のと鉄道輪島駅跡地

のと鉄道七尾線は、1898年に七尾鉄道により津幡~七尾間が開業したのが始まりで、国有化後、1935年に輪島まで延伸した。その後、1991年に第三セクターののと鉄道株式会社に経営移管したが、2001年に穴水~輪島間が廃止となり、終着駅であった輪島駅は、道の駅「ふらっと訪夢」に再整備されている(図-5, 6, 表-4, 写真-1)。アンケート調査によると、現在、線路跡地については線路を撤去しているが再活用方法については計画中和の回答であった。

輪島駅跡地の用途地域は、第二種住居地域(建蔽率70%、容積率200%)に指定されている。さらに駅前広場が1976年に都市計画決定(3,900㎡)され、整備済みであった。なお輪島駅跡地を含む117haの区域が、旧中心市街地活性化法の基本計画の区域として指定されている。



図-5 ふらっと訪夢(輪島駅跡地)の位置⁽⁶⁾



写真-1 ふらっと訪夢(著者撮影、2005年)

「ふらっと訪夢」は2002年4月に開駅し、新たな交流拠点施設、交通ターミナルとして利用されている。施設は、敷地面積1,455㎡、延床面積821㎡の木造2階建てであり、1階には物産館、軽食施設、休憩施設、2階

には会合、展示会等に利用できる輪風の間、拭漆の間（利用料金：1時間当たり各500円）が設けられていると共に、観光案内センターも併設整備されている。

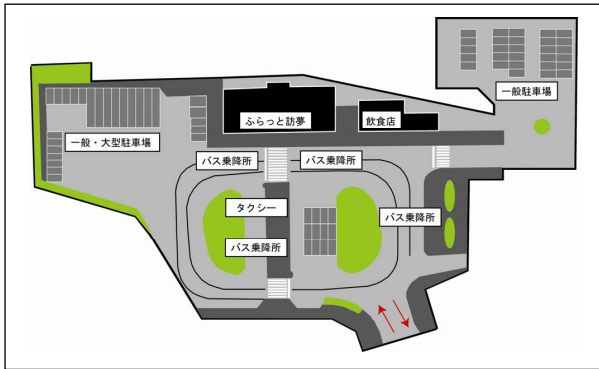


図-6 ふらっと訪夢平面図

表-4 ふらっと訪夢整備概要

| | |
|------|--|
| 路線名 | 主要地方道七尾輪島線 |
| 駐車台数 | 22台(大型車8台、小型車14台) |
| 設備 | 特産物販売、情報コーナー、飲食店、トイレ、バス・タクシーターミナル、休憩施設 |
| 完成年 | 2002年 |
| 整備手法 | 単独 |

駅前広場は、交通ターミナルとして整備されており市内循環バス「のらんけバス」（路線数：5路線、運行本数：各路線1日8本、運行間隔：1～2時間）、特急バス（金沢方面行：1日11本、和倉温泉行：1日3本）、路線バス（穴水駅行（市の坂経由）：1日11本、穴水駅行（洲衛経由）：1日4本）の発着所となっている。

5. まとめと今後の課題

本研究では、アンケート調査により鉄道廃線によって発生した駅跡地の再活用の実態を全国レベルで把握した。そして有効活用事例の具体的な整備状況を確認した。本研究のまとめを下記に示す。

- ①鉄道駅跡地については、公益施設として整備されたものが一番多く、次いで駐車場、宅地であった。その他の整備方法としては一般道路等道路の一部として整備したものが多く見られた。また鉄道及び駅があった記憶を留めるために、鉄道跡を保存・継承する鉄道・交通記念館、鉄道交通公園として整備したのも見られた。
- ②公益施設の整備内容としては、公園に整備されたものが多い一方で新たなまちの拠点とするため「道の駅」や「観光拠点施設」として整備したのも見られた。
- ③有効活用事例を調査した結果、青森県むつ市の「むつ来まい館」は、観光拠点として再整備され、貸室等の設備があり、これまでに約15万人の利用者がある

ことから再整備後は有効に利用されていることが確認された。また石川県輪島市の「ふらっと訪夢」は、道の駅として再整備され、物産館、休憩施設などがあると共に、駅前広場は交通ターミナルとして整備されており、新たなまちの拠点施設となっていた。駅跡地は、広域的な視野を持ち総合的なまちづくりを行い有効に再活用することができれば、まちの新たなシンボル、拠点施設として再生することができる可能性を持ち合わせているといえる。

今後は、駅跡地の土地利用転換プロセスについて、関係機関との協議や都市計画手続き等の観点から研究を進めていく予定である。さらに駅に付随する駅前広場は、都市計画決定されているものもあり、整備済みのもも見られる。そのため、鉄道廃線における駅前広場の実態を把握した上で、駅前広場の再活用状況及びそのプロセスを確認していくことを考えている。

謝辞

本アンケート及びむつ来まい館の利用状況調査にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

補注

- (1)岡本・大沢・岸井：旧国鉄跡地の活用実態と土地利用転換状況に関する研究, 都市計画論文集, No41-3, pp. 773-778, 2006. などがある。
- (2)大島・田代・高野：地方交通線廃止による地域社会の変容に関する研究, 土木学会第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 600-601, 1991. などがある。
- (3)その他の内容として複数の回答があったため、図-2のその他と表-1のその他の件数は一致しない。
- (4)その他の内容として複数の回答があったため、図-3のその他と表-2のその他の件数は一致しない。
- (5)国土地理院2万5千分の1地形図(むつ)に加筆
- (6)国土地理院2万5千分の1地形図(輪島)に加筆

引用・参考文献

- 1)国土交通省鉄道局：鉄道統計年報 昭和62年度～平成17年度
- 2)運輸省鉄道局：民鉄統計年報 昭和50～60年度
- 3)運輸省鉄道局：私鉄統計年報 昭和31～49年度
- 4)運輸省鉄道局：地方鉄道軌道統計年報 昭和25～30年度
- 5)国土交通省：陸運統計要覧
<http://toukei.mlit.go.jp/youran/youran.html>
- 6)日本国有鉄道：日本国有鉄道百年史, 1972～74.
- 7)富山地方鉄道：富山地方鉄道五十年史, 1982.
- 8)宮脇俊三：鉄道廃線跡を歩く, JTB, 1995～2003.
- 9)寺田裕一：私鉄廃線25年, JTB, 2003.
- 10)むつ市：むつ市中心市街地活性化基本計画, 2001.
- 11)輪島市：輪島市中心市街地活性化基本計画, 2000.
- 12)国土交通省2006年8月13日報道発表資料「道の駅」の第18回登録について
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/06/060813_.html
- 13)経済産業省商務流通グループ中心市街地活性化化室街元気プロジェクト <http://www.machigenki.jp>